

市職員らがシトラスリボンのピンバッジを着けて コロナ差別防止をアピール

河内長野市
令和3年6月22日

河内長野市（島田智明市長）は、コロナ禍における偏見や差別をなくすことを目的とした「シトラスリボンプロジェクト」に賛同している。この度、その取組みの一環として、シトラスリボンのロゴマークを形どったピンバッジを作成した。今後、市職員らが同ピンバッジを身に着けて、市役所全体でコロナ差別防止をアピールする。

ピンバッジ作成には、河内長野市人権協会（安達英行会長）と河内長野市作業所連絡協議会（大谷多美子代表）の市民団体も参画しており、市民に活動の輪が広がることも期待している。同ピンバッジは7月1日（木）から市庁舎1階で開催する「人権・平和に関するパネル展」で、市民に配布する予定（先着800個）。

同市では、昨年10月に市人権協会と共同で「新型コロナウイルス感染症に関連した差別を許さないまち」を宣言した。また、同市議会では同年11月に「新型コロナウイルス感染症患者等への差別防止に関する条例」を全会一致で可決し、施行している。

これらを踏まえて、同市では同プロジェクトに賛同し、コロナ差別防止に取り組んでいる。島田智明市長は、「新型コロナウイルス感染症は未だ収束の兆しが見えません。このような中、医療・介護従事者を始めとしたエッセンシャルワーカーなどへの差別は決して許されません。今後も市は、市民一人ひとりの人権が尊ばれる心豊かなまちづくりを推進してまいります。」と話していた。

○シトラスリボンプロジェクトとは

コロナ禍で生まれた偏見、差別を耳にした愛媛県の有志が始めたプロジェクト。

シトラス色のリボンやロゴを身に着けて、「ただいま」「おかえり」の気持ちを表し、感染された人などが地域に帰ってきたときは、普段どおりの暮らしが送れるような、思いやりとぬくもりのある地域づくりを進める運動。リボンの3つの輪は「地域」「家庭」「職場（学校）」を意味しており、愛媛特産の柑橘にちなみシトラス色をイメージカラーにしている。



Citrus Ribbon
PROJECT

シトラスリボンロゴマーク



ピンバッジ画像

問い合わせ 河内長野市総合政策部人権推進課

(電話0721-53-1111)